

# さかえ

四月号



栄村公民館

No. 18

資料提供：花開孚夫氏(つくば市金田)  
編集：木村 滋

(2) 注意せねばならないことは、指先にちぢることや、  
鋏にて切り取る等の事は避け、側芽の先端を持つて下  
方に強く引き、其の調子に折り取るのが一番適切であ  
る。其れにバイラス病の蔓延を防ぐ一助となる。バイ  
ラス病は其の植物の整理的現象により現はれる場合と  
菌によつて蔓延する場合とあつて、どちらにも原理が  
あつて、どちらから来たのか判定がつかないと言ふ事  
が現在の病理の状態であるので、避け得らるゝ事は些  
細な事柄でも、避けるやうにしたい。

追肥は五月中旬才一回を行ふ。菜種粕二〇×(ハノ一  
×〇ハ〇、P五〇〇×、K二〇〇×)過燐酸石灰五×  
(P八〇〇×)硫酸加里七×(K三×三六〇)を植付  
株の外側に畦條に施肥する。完全に沾着したなら、疫  
病、べト病の予防の高めの石灰ボルドー液の消毒を行  
はなければならぬ。石灰ボルドー液は少量石灰ボル  
ドー液がよい。硫酸銅一ニ〇×に対し生石灰六〇×及  
至七〇×、良質の石灰をよく溶解するものなら六〇×  
で良いと思ふ。濃度は最初六斗式でよい。ボルドー液  
の製法は、先づ六〇×の生石灰を六斗の水に溶かして  
石灰乳を作り、五斗四升の水に硫酸銅一ニ〇×を溶か

し良く攪拌して、六斗の石灰乳の容器に、五斗四升の  
硫酸銅の溶液を徐々に攪拌しながら注ぎ込む。此の際  
誤つて大量の硫酸銅の溶液の方へ少量の石灰乳を注ぎ  
込む事は反対になるので中知しないから注意を要す。  
第一回の消毒には菜液の量は反当り四斗位撒布。方  
法は必ず噴霧器を用い、トマトの葉の裏から噴霧する。  
其の際噴霧口をある程度引離して、細霧の部分を展開  
するやうに行ふ。其れと同時に、前年に使用した支柱  
は丁寧に消毒する。又隣接の圃場に馬鈴薯の作付があ  
る場合は其の圃場の消毒を行つて、疫病の伝染を防止  
することを忘れてはならない。五月中の消毒は一週間  
乃至十日目毎が良いが、六月になり雨期に入り多湿の  
気候になれば、病害の蔓延が旺盛になるから、日数に  
はとらわれず、雨上り天気の変わり目には必ず萬障練合  
せて行はなければならぬ。菌の繁殖は水分により移  
動し、葉の裏面より食ひ込む。一旦食込んだ菌は非常  
に強力になつて、薬剤に対する抵抗が強くなるから、  
雨前の消毒は非常に有効である。植物の同化作用は葉  
の表面にて行はれることは勿論でありますので、表  
面に多量の薬剤が展着し、光線の透過を防げる事は植


し良く攪拌して、六斗の石灰乳の容器に、五斗四升の  
硫酸銅の溶液を徐々に攪拌しながら注ぎ込む。此の際  
誤つて大量の硫酸銅の溶液の方へ少量の石灰乳を注ぎ  
込む事は反対になるので中知しないから注意を要す。  
第一回の消毒には菜液の量は反当り四斗位撒布。方  
法は必ず噴霧器を用い、トマトの葉の裏から噴霧する。  
其の際噴霧口をある程度引離して、細霧の部分を展開  
するやうに行ふ。其れと同時に、前年に使用した支柱  
は丁寧に消毒する。又隣接の圃場に馬鈴薯の作付があ  
る場合は其の圃場の消毒を行つて、疫病の伝染を防止  
することを忘れてはならない。五月中の消毒は一週間  
乃至十日目毎が良いが、六月になり雨期に入り多湿の  
気候になれば、病害の蔓延が旺盛になるから、日数に  
はとらわれず、雨上り天気の変わり目には必ず萬障練合  
せて行はなければならぬ。菌の繁殖は水分により移  
動し、葉の裏面より食ひ込む。一旦食込んだ菌は非常  
に強力になつて、薬剤に対する抵抗が強くなるから、  
雨前の消毒は非常に有効である。植物の同化作用は葉  
の表面にて行はれることは勿論でありますので、表  
面に多量の薬剤が展着し、光線の透過を防げる事は植

物の生理を害する結果になるので、消毒薬の噴霧は必ず葉の裏面へ噴霧展着させること。尚トマト胡瓜どちらも葉の表面が軟い状態にして置かなければ、完全な同化作用は行はれない。石灰ボルドー液により、消毒の度数を重ねる毎に、石灰の塩基性により葉質が硬化するので、石灰は成る可く少量にいたしたいので、ボルドー液は少量石灰ボルドー液を使用することがよい。

病害の中で最も恐るべきは、疫病、青枯病、立枯病、黒斑病などである。疫病は気候と関連する病害で、病菌は馬鈴薯の疫病と同一で、温度の冷気を覚える時に発生する。暑気には発生せぬものである。青枯、立枯は連作を避けるが、尤も良い方法である。

(3) 虫害はネマトーダ、根切虫、蚜虫である。ネマトーダは土地の天地返しが有効である。根切虫防除は根元に除虫菊木灰を盛り置くがよく、蚜虫は除虫菊石鹸水又は石鹸(水一斗に石鹸三十分)水を散布する。病害予防は薬剤による外に、肥培管理に於ても合理的に行ふべきである。即ちNPKの三要素を適当に具備した施肥を行い、六月中旬には肥効の最高頂を過ぎ去つた

状態になるやうにし、六月下旬に第二回の追肥を行ふ。硫酸四×五〇〇(又N九〇〇(又)硫酸加里、二×目)K、九六〇)又は草木灰一七×(K九〇〇)を施す。前作の残効によりトマト草勢極めて旺盛なる時は、追肥は行はない方がよい。成熟が遅れ病害に侵される率が大いからである。

吾々は今年のやうな悪天候と戦いつつ合理的な育苗管理と、定植後の肥培管理を完全になし、のトマトの名に恥しからぬ良品を多量に、又早期に生産し、農業協同組合の出荷態勢に準據し、統制ある協同販売をなし、吾が米村の農家経済の確立を期されたし。 完

**役場の取務分担任が変りました** 四月一日より

庶務兼消防送管	酒井至平	土木	酒井助次
戸籍兼人口動態	飯島書記	国民健康保険	飯島(志)書記
税務	岩瀬書記	保健婦	片岡とく
税務	久保田書記	農業委員会	大山書記
民生兼勸業	横山書記	全農地関係	飯島かつ子書記
統計兼配給土地改良	柴沼書記	公民館	豊島至平
衛生兼学事	石渡書記	全	鷹巣志平

(4) **学校通信**



**学年末便り  
小学校から**

本年度は、四月の取員異動とその後の欠員等の爲、何かと落着かなかつたところへ、縣から実験学校の委嘱を受けて、その責務の重大を痛感しながら、全取員一致して努力して参つたのでありますが、村民各位の絶大なる御支援と御協力を得まして、予定の行事も一応の成果を収め、この年度末を迎える事の出来まじた事を深く感謝致します。来年度は実験学校も第二年になり、本格的な研究会を催して、本校教育の全貌を紹介することになっております

**昭和廿六年度栄小学校修了者名簿**

- 上境 酒井 日、酒井 操、酒井 唯好
- 酒井 静男、多比良 勲、酒井 ざみ
- 米田 万里子、大塚 文子
- 土器屋 飯島 峰夫、里見 利夫、飯島 光子
- 鴻巣 しげ、飯島 彬
- 中根 酒井 五兵衛、本橋 英輔、本橋 保

中根 平島 誠、広瀬 俊一 佐藤 功二

- 中野 秀一郎、斉藤 昌久、本橋 よし
- 室町 英智子、塚本 てる子、平島 幸子
- 程塚 美代子、平島 久子
- 松塚 鈴木 武夫、久保田 愛子、久保田時子
- 大 酒井 貞男、酒井 治也、小川 登志子
- 酒井 よし子
- 横町 宮本 仁一、杉田 正幸、大塚 利明
- 飯島 義一、鈴木 光子
- 金田 加藤 信雄、岩瀬 重夫、沼尻 盛夫
- 岩瀬 興一、沼尻 茂治、増山 芳男
- 市村 清、岩瀬 ひさ子、塚本 智子
- 沼尻 美知子、久松 英子、荒井 光世
- 古米 豊島 雅己、豊島 英雄、藤沢 節子
- 久松 しげ、菊池 志都子
- 舌瀬 上方 茂、根本 好、中島 美智子
- 根本 昌枝、五頭 章子



皆さん 来る四月二十九日は天皇誕生日、五月三日は憲法記念日、五月五日は子供の日です。戸毎に国旗を掲げましょう。



# 中学校から

一、学期末テストも三月七日で終了しました。その結果は平均の最低二年英語一九〇〇、最高三年社会科八八、八〇です。全教科全校の平均は五九六五で、前期に比較して五頁位向上して居ります。

全般に、理科、英語、数学が劣つて居ります。

永続的な努力を必要とする教科の成績が劣つて居ります。今の子供が、克己心、努力心、意志力が劣つて居るのが原因です。大人の社会的風潮が、明日より今日を、今を樂しむといつた傾向が多分にありますので、この様に子供に反映して行くのだと思います。

二、通信法の五頁法(五段階)は、前年平均が、六とすれば、この六一を中心(五二)七一迄を3とし、三二(五一)までを2、〇(三一)迄を1。

七二(九一)迄を4、九二(一〇〇)迄を5、この様にして通信法の12345を記入しているのです。

通信法に2とつけてあつたから子供が怠けていると考えるのは早計です。本人としては、素質を100%

發揮しているのか分りません。子供が、どの位の素質で、どの様に努力しているかを受持によくおたずね下さい。

三、三月十七日、十八日子供会発表会(公民館)

四、三月二十日 卒業式

五、三月二十二日進学生入学許可発表

六、春季休業 三月二十九日より四月五日まで

子供達の気のゆるむ時ですから、家庭でも御指導下さい。平業生は入学式の七日迄は、中学生でも小学生でもない期間ですので、特に注意を要すると思います。(市村記)

## 昭和二十六年度栄中学校卒業生

上境 酒井康夫 酒井恒夫 八月朔日清一

中島文子

中根 室町光興 小林一夫、室町みつ、本橋三江

平島初枝 平島とよ子 下村はつ江

土器屋皆川 清 飯島勝男、大塚 憲、久松静二

飯島信子 鈴木文子、飯島保男 寺島 毅

横町 鴻巣 通 島崎 亮、宇都不利枝

沼尻みつ江

## (5)

## (6)

大 大久保正五郎 塚本勝彦 酒井依次

飯島英吉、酒井志津子

松塚 美野本 学、久保田隆之、鶴見仙次

久保田善子、鈴木久子、久保田美江

久保田富子

金田 岩瀬道子、佐藤芳男、沼尻安弘、沼尻資男

木村ひで、沼尻ちよ、沼尻琴子、沼尻順子

石谷広子、増山 亨、久保田澄子、黒田はま

古采 久松一夫、菊地 勇

吉瀬 根本 久、中島武夫、中島唯雄、横田稔雄

中島昌子、岡野せい、上方孝義

## 昭和廿六年度中学校卒業生授賞者

成績優良 飯島 英吉、平島 初江、室町 みつ、

本橋 三江、沼尻 琴子、美野本 学、久松静二

上方孝義、久保田美江 大久保正五郎、岩瀬道子

平島とよ子

生活勤勉賞 飯島信子、中島昌子、塚本勝彦 飯島保

男、菅谷広子、室町光興、酒井恒夫

三ヶ年間皆勤賞 平島初枝、寺島毅、美野本学 平島

とよ子、飯島信子、本橋三江 木村ひで、鈴木文

子、下村はつ江

図書館役員賞 増山亨、久保田富子、久保田澄子

平島とよ子

郡校長会長賞 飯島英吉 室町みつ

村長賞 平島初江、本橋三江

PTA会長賞 沼尻琴子、久保田美江

協同組合長賞 大久保正五郎、飯島英吉、室町光興

沼尻琴子、室町みつ、本橋三江、鈴木久子

中島文子

九ヶ年皆勤賞 沼尻琴子 室町みつ、沼尻ちよ



## 青年学級便り

三月になりました日も長くなり、始業時刻の七時の始業も三十分位遅れる様になりました。三月二十五日まで日曜を除いて毎夜開講して居ります。講師も生徒も共に無理がありますが、開設期が遅れて居りますので、予定の時間の講座を本年度中には是非完遂致したい目標に従つて実施致して居ります。生徒諸君の眞面目

- な出席には敬服致します。講師も多忙の中を夜間までの勤務で悉く存じて居ります。講師生徒のこの真剣さこそ眞の愛国心、愛郷心に他ならないと思ひます。去る三月四日反省致しました世論を参考までに述べてみたいと思ひます。
- 一、生徒の研究発表をとりいれてもらいたい。
  - 二、一週四回位がよい。
  - 三、珠算の時間を多くしてもらいたい。
  - 四、珠算の時間が多過ぎるから、一般教養科目を多くしてもらいたい。特に国語の力をつけて頂きたい。
  - 五、農業の時間を多くして頂きたい。
  - 六、娯楽を月二回位欲しい。
  - 七、村の厂史の講座が欲しい。又厂史の講座を設けて頂きたい。
  - 八、珠算は能力別にして、基礎力の練習をお願いしたい。
  - 九、女子の昼間の部を夜間にして欲しい。
  - 一〇、礼儀作法の時間と英語の時間が欲しい。
  - 一一、運動も正課にして頂きたい。
  - 一二、授業中喫煙者があるが自主的にやめさせたい。

- 一三、授業中他人の邪魔になる話声のものがあつた。
  - 一四、自らインテリがぶつて出席しない青年がいることは不快である。
  - 一五、青年会幹部の出席が悪い、幹部諸君の重範こそ青年会活動の源泉と思ふ。
  - 一六、討論会を開きたい。
  - 一七、高い専門的なことより常識的な実地的な内容にして頂きたい。
  - 一八、出席の正確、始業の正確を強調したい。
  - 一九、一課目を教人で教えないで、一人の先生で教へて頂きたい。
  - 二〇、青年字級に出席している青年に対する信用が高まつた事はうれしい。
  - 二一、一般教養科目の必要と興味があつた。
- 以上は生徒の真剣な叫び声であります。開設して短時日の間に、逞しい批判力や自覚が生れて来たことは村の発展の爲頼母しいことでありませう(市村記)

**お断はり** 中学校小学校共在校生受賞者の生徒氏名は紙面の都合上省略しました



鶏の飼方

農業改良普及員 技師 高野 光 雄

前編に於て、一代交雑の利用と農家の自給養鶏を主として申し上げましたので、一般的の育雛に就て即ち母鶏育雛について今回は書くことに致します。

(一) 育雛設備と雛の運動

母鶏育雛は雛に対する親雛の愛惜と、絶えざる保護により自然に育てるのであるから、人工育雛よりも遙かに育て易いのであるが、曹敵(犬猫)の襲撃により損害が尠外大きいから、充分注意が必要である。

母鶏育雛では、一定の育雛舎を持つと否とに拘らず、育雛箱を用意しておき、夜間は親子共、此の箱の中に收容する様にした方が安全であり、育雛成績もよい。又孵化後、日の浅い雛は日中親鶏につけて終日放飼すると、雛は運動が過ぎて過勞となり、却つて結果がよくないから、始めの中は朝夕二回、給餌の折に親子共に籠箱外に出して、十分か十五分位運動させ、余り

長くならない中に箱に收容するのである。孵化後十日位経つて、雛の脚力が充分強くなつたならば、籠箱からの外出運動時間を徐々に長くし、遂には終日放飼に導くのである。

育雛舎は完全なものであれば、それに越した事は無いが、農家の自給養鶏では、余り理想的なものを望んでも無理だから、先づ雨漏りのしない南面の小屋であれば良いとしたい。そして小屋の広さは、一腹の雛に対して一坪位あればよい。又運動場は小屋の南側に、小屋の広さの二倍位は欲しい所である。

育雛箱は手頃のものとしては、三尺五寸メニ尺位で高さ一尺五寸位、前方は六七寸高さとする。此の箱の内部は、親鶏の居る所と雛の運動場との中仕切(一尺二寸位の所)に二寸五分位の格子をつける。箱の中には短く切つた切藁を敷き、箱内の清潔と雛の運動を助長する。

(二) 母雛との隔離

雛は成長するにつれて、自温の発散が盛になり、或る時期が来れば母雛による保温を必要としない様になる。その母雛と雛と隔離する時期は、雛の発育状態を

見て定めるのであるが、普通には三十日位とし、寒冷時及梅雨期は四十日位とする。又隔離した当時は、相互に鳴声の聞える所に置けば親子共愛着の念強く、親鶏は産卵が遅れ、雛は食慾が衰えるものであるから、出来るだけ遠い所に移し、速かに執着の念を去る様にされた方がよい。育雛箱は親子隔離した後も尚暫くの間使い、孵化後六十―七十日して雛が止り木に上る様になつたら、育雛箱の使用を中止する。

#### ④ 孵化後飼付迄の管理

孵化直後の雛は、縮羽が濡れて居り非常に貧弱であるから、親鶏に踏まれぬ様に逐次温い雛收容箱に移し、十分休養させて縮羽の乾燥と元気の快復を図つてやる。此の際收容箱は尤線の入らぬ暗い場所におくべきで、不注意に明るい場所に置くと、雛は盛に餌を求め、運動が過ぎて衰弱し易い。又鶏の休養する場所は、華氏九五―一〇〇度の温度が好適しているから、雛收容箱は通気がよくて、而も充分保温出来る様に工夫すべきである。又全部の孵化が終つたならば、再び親鶏の腹の下に返して、飼付迄其の儘休養させるがよい。

#### ④ 飼付の時期と注意

(10) 道の時期と見て間違いない。要するに雛の飼付の時期は、雛の孵化状態、孵化後の管理の良否、及びその時の気温等に依つて左右されるものであるが、一般的に言へば、飼付は早きに過ぎるよりも幾分遅くした方が結果が良いものである。

#### ⑤ 飼付時の飼料と其の與へ方

飼付用の飼料としては、人に依つて色々流儀もある様であるが、普通玄粟、玄米小米、綠餌、黃卵、及び補助飼料(混合塩類)を用いる。玄粟及び小米は約一晝夜水又は湯に浸漬した後、水切りして用いる。綠餌は薄葉の葉菜類を極めて細く刻んで與へる。卵黄は、茹でたものを用い、卵白は用いない。補助飼料(混合塩類)といふのは、理想的には炭酸石灰二、骨粉又は貝殻粉二、食塩一を混合したものであるが、簡單には炭酸石灰四、食塩一、の割合に混合したものでよい。炭酸石灰は肥料用の炭カルを用い、外に貝殻の碎いたものでもよい。尚補助飼料に整腸剤として、木炭末を少量添加することもある。以上の粟、小米、綠餌、卵黄及補助飼料を練餌として、新聞紙に薄く広げて給与するのである。餌は開始より三日間は、一日六回

初生雛は腹腔中に卵黄を貯へて居り、孵化後二―三日間は此の腹腔中の卵黄に依つて栄養を補ふものである。従つて孵化後二日間位は全然飼料の摂取を必要としない。腹腔中の卵黄が徐々に消化されるにつれて、外部からの飼料の摂取を要求する様になるものである。一方雛の筋胃(砂囊)は孵化直後は、胆汁を以て充たされて居り、其の内壁は軟弱で、到底餌の摂取に耐えないものであるが、孵化後三十時間位で筋胃の中は空となり、其の内壁は硬化して、周囲の筋肉も締り、筋胃としての常態を備へる様になるものである。

雛の飼付時期の決定に當つては、以上の二つの事柄を念頭に置いてかゝる必要がある。即ち飼付時期が余り早過ぎると、却つて雛の消化器を傷け、強い下痢症を誘発したり、甚しい場合には吐血して死ぬ様なことがある。又飼付が余り遅いと、体内の卵黄の消化が進み過ぎ、衰弱と食慾不振の原因となる。そこで普通は最後の雛が孵化してから四〇時間位経過した時期が、適当な飼付時期として居るが、其の時期を雛の外観より判断するには、雛の尻の所に手を触れてみて、卵黄の存在を触知し得ず、又雛の主翼羽が現れた時が最

給餌が宜しく、給餌の分量は母鶏一羽、雛一五羽の一日量、粟六〇瓦、小米六〇瓦、卵黄二個、綠餌六〇瓦、補助飼料三―四瓦位でよい。

此の様な飼料を、飼付後三日間継続し、四日目から卵黄の給與を止め、粳、米糠、大豆粕、魚粉等を加へて、一般配合飼料に切り替へるのである。(第四日目以降の飼料給與については、育雛飼料の項に詳記する)尚飼料を新聞紙等に広げて給與する方法は、飼付後二―三日で中止し、其の後は浅い木製又は金属製の給餌器、又は孟宗竹二つ割の給餌器を用いるがよい。其の大きさは雛の発育に應じ、漸次大きいものに取り替へた方がよい。又育雛箱の中には不潔になり易いから、飲水器は常に、新鮮なる水が飲める様にしてやりたい。木炭末と貝殻、石片等は小型餌箱に入れて常時絶やさぬ様に入れておく。

#### ⑥ 飼料の給與方法

育雛中の飼料の給与方法には、一日數回に分けて與へる。回教給與と、終日自由に摂取し得る様にした不<sub>断</sub>給与とあるが、母鶏育雛の場合は、孵化後二―三日間は育雛箱を用ゆるので、飼料の給与も回教給与とした

方がよい。回教給与では、一冊の給与量を少なくして、給與する回教を多くした方が、雛の飼料摂取量が全部の雛に平均に行亘り、発育を揃える意味に於て合理的である。それで育雛箱を用いる母鶏育雛では、一日の飼料給與回教を次の様にする。

孵化後一ヶ月間(一日)五〜六回  
一ヶ月より三ヶ月迄四回  
三ヶ月以降 三回

尤も二ヶ月以降、雛が止り木に泊る様になり、育雛箱も必要なくなつたならば、飼料の給與は不断給與と、回教給與(練餌に依る)の併用とし、不断給與の方は蛋白質の多い飼料を入れておき、終日自由摂取とし、回教給與は、甘藷馬鈴薯、残屑等の練餌に適するものを使用して與へ、又夕方雛の寝る前に短餌を撒いてやるのも、飼料給與の効率を省き、又雛の飼料摂取量を平均にし、発育上好結果を期待することが出来る

公民館図書館図書目録

芸術の部

技芸百科全書 内山正如  
女子文の林 梶山彬

書名 著者 書名 著者

作文模範答束 山根久米治 土と肥料 水谷 三郎  
作成法 稲作10ヶ月 和田栄太郎  
罌 關 上野竹次郎 作物肥料栽培法 廣瀬 次郎  
マクラメとド 若山 里子 至聖農作物の 横山 尤好  
ロンウオーク 病害防除法  
高等科体操指 池澤 幹 自給飼料 庄司謙次郎  
導要領 果菜類の莖花 藤井 健雄  
莫突の体育を 三浦 ヒロ に関する研究

求めて 農村自救論 権藤 成郷  
女子の体育運動 岩 原 拓 推査栽培 飯島 菊雄  
卓 球 今 孝山羊の飼い方 中村 光義  
最新スポーツ 旺 文 社 養鶏大成 伊藤 雅吉  
の知識 切花の営利的 西村 賢次  
園藝講座 野 上 彰 栽培 アンゴラ兔の 藤井 武雄  
今昔物語

産業の部

米作大増収実話 篠原 定藏 争の読み方 長永 毅正  
一年有半 大橋新太郎 商業学校概論 内池 康吉

<11>

書名 著者 書名 著者 書名 著者 書名 著者

<12> 商店の業務と 芦川 忠雄 原子力時代 名里 良保  
経営 僕等の実験室 石 原 純  
商行専法 松本 悉治 交流機械(後)電 教 社  
南警船貿易史 外山仰三郎 水の生活科学 村上 秀二

工学の部

工業教科書 国民工業学院 實用植物書 進藤 玄敬  
實用土木講習録 五十嵐正道 香料小史 大淵 彰三

社会の部

書名 著者 書名 著者 書名 著者 書名 著者  
日本藥局方備考 飯島 芳康 人口問題講話 下 村 宏  
結核は必ず癒る 厚生省保険院 文芸の話 土岐 善彦  
厚生省保健局 庭教育 支那の現状 大 西 春  
婦人問題の話 鈴木文四郎

自然の部

書名 著者 書名 著者 書名 著者 書名 著者  
捕鯨船隊 桑田 透一 歯科応急手当 島峰 徹一  
自然科学問答 岡 英 二 予防医学ノト 高野 六郎  
印度の自然と 内田 寛一 家庭療法全集 八 木 登  
民族 療養の適応と 二木 謙二

三色の学び方 根津 干治 体質改善  
代数学教科書 園 枝 元治 結核常識問答 川 口 正  
代数教科書解説 鈴木 長利 いろいろな結核 川 口 正

新聞の話 杉村広太郎 家庭と読書 今澤 豊彌  
物価の話 牧野 輝智 家庭と音楽 田山 尚雄  
議会の話 緒方 竹虎 労働組合講話 山 川 均  
世界の大勢 米 田 実 今日の給与問題 今井 一男  
現時政界の裏面 石井三三 馬論批判

科学思想 石川 敏功 洗濯と衣類整理 主婦の友社  
法学通論 穂積 重遠 家庭改良と家 佐々木吉郎  
警察法令判例集 内務省警保局 庭教育 加藤 直一  
改正新民法読本 奥野 健一 修養論 穂積 重遠  
代橋主食の研究 田所哲太郎 婦人問題講話 穂積 重遠  
経 済 学 河 津 暹 家庭生活の合 井上 秀子  
茨城県衛生統 茨城県 衛生部 理化 家庭と洋裁 曾谷代子  
計要覧 衛生部 家庭と洋裁 曾谷代子  
集約主義 西村 文則 共産主義国家 石川準十郎

書名	著者	書名	著者	書名	著者	書名	著者
日本美術の話	仲田勝之助	新しい女性の	金子貞子	皇国小史	勝浦 朝雄	文化と平和の	社会教育連
衣類の科学的	菱山 衡平	つどい		作文法	秋野 由之	ために	合会
整理		男女の交際と	社会教育連	國語教育概説	八城 則吉	青少年心理教	社会教育連
農村家政学	片岡 重助	礼儀	合会	化学教科書	龜高 徳平	育の諸問題	合会
縁談と婚礼式	新井 兵吾	子供の養護と	早川 優	代数学講義	蘆野理學士	夜寧の心理	賀川 豊彦
家庭百科知識	高木 斐川	しつけ		母性教育論	福島 政雄		
の泉		アメリカの旅	社会連合会	美味しい果物	大日本料理		
虚世信念	大倉 邦彦	近代日本女性	教育	料理	研究会	書名	著者
新しい婦人の	大島 秀一	の解放	田中惣五郎	カンドウキツ	大日本料理	人類物語	神近 市子
處生読本		農村生活の設計	丸岡 秀子	千百種	研究会	藤原鎌足公	新屋敷幸繁
日本農業の前途	椋井 武雄	青春期の性の	望月 衛	幼児の心理と	閑寛	之日本外史	頼成 一
農村と文化	上泉 秀信	心理		教育	校刻日本外史	松平 基則	
花嫁花婿必要帳	婦人倶楽部	青少年の不良	社会教育連	国民小訓	徳富猪一郎	明治大帝	長谷川 卓郎
民主主義科序	松村 一人	化と教護	合会	オードーガル	大日本料理	日本外史字典	都文舎編輯所
陪審法の話	鈴木 五郎	主婦のメモ	上野しげ子	百拾種	研究会	明治詔勅全集	柴田勇之助
産児制限	山本 秋	日本社会主義	片山 哲	新女子青年教	北海出版社	詳解東洋厂史	中等教育会
性知識のあた		の展開		科書		我等の原拓相	富岡福寿郎
えかた	合会	日本の巖	武田 勘治	食物指針	日本国民高	水戸義公	矢田 勇
女性のことは	教育連合会	四十運にまれ	新保 民八	日本民族社会史	村山 節	二宮翁夜話	中上喜三郎

歴史の部

(14)

書名	著者	書名	著者	書名	著者	書名	著者
七英八傑	大野 芳衛	五十年後の太	荒木利一郎	二人の友	青柳 瑞穂	新治郡郷土史	嶋 泉 嶺
東郷平八郎全集	小笠原長生	平洋		半七捕物帳	岡本 菊堂	いばらき人筆録	大内 捨次
近衛内閣	成田鶴太郎	理想郷建設の	菅原龜五郎	春の夜	芥川竜之介	市町村取員録	市村 千代
哲学の部		風 見 章 五型		常南四郡名家揃	遠藤永吉	水郷めぐり	小池 素康
国民掌典	馬場 直美						
友成人名辞書	弘文社編輯部						
版部守之吉	小柳可氣太						
伊藤仁太郎	大道 弘雄						
国民新聞社							
荒木利一郎							
小澤 景勝							
藤田 秀雄							
鈴木 力衛							
瀬川 清子							
能田多代子							
光學編輯部							
長 尾 良							
岡田 真吉							
白鳥の死							

新春栄村俳句会詠草

時 一月廿七日  
 所 於公民館  
 兼題 琴踏 当季雑詠  
 選者 秋元虚受 植野香風  
 永田晋雪 酒井雪花  
 席題 雪 当季雑詠

何するとなく来て参を臨みたり 峰雪 ランドセル負つて負はれて雪の朝紫泉  
 針さしの針が寒夜の灯をたらふ 紫村 雪がなし靉のなき子が又席す 峰雪  
 梅に寄り松籟遠くさきむたり 松翠 富士の袖掛け寒梅と白木乃 雪花  
 タタヒ足裏に撒り参を踏む 暮村 朝の窓ペンをまらす雪明り 香雪  
 影法師もつれて踊り参を踏む 紫泉 背のぬくさ語りあつた参踏り 松子  
 雪晴や地の杭まますすぎ物 水哉 木々の雪目に光りつつ鼠と飛ぶ 暮村  
 元夏心寒しく計り事 亮風 紅梅や余儀なく嫁すといふ噂梅風  
 牙返の月をたらへし庭の池 霞峯 釣魚子またたみて待雪となる松翠  
 日当のよきこの庵の梅早し 栢棧 雪解の入江濁して船が着く 水哉  
 松影を大地に投げて月浴ゆる公道 今年こそ我が田となりて銀初 亮風

總記の部

# 人事消息 (三月分)

出生の部 戸籍係

出生年月日	氏名	大字	父	母	続柄
一、二七	上野 守男	上境	勝天	みち子	長男
一、二五	牧野 悦子	東京都	行永	房子	(非本籍)
二、一一	酒井 辰男	大	源四郎	よし	六男
二、九	酒井 栄子	大	文雄	さと	長女
二、一五	藤澤 政子	古未	吉松	たけ	二女
二、一四	豊島美智子	古未	源之進	ちう	三女

## 死亡の部

死亡月日	氏名	年令	大字	筆頭者との続柄
二、二	沼尻 久一	三〇	金田	本人
二、一二	平島 重雄	六四	中根	本人
二、一五	酒井 駒治	六七	上境	本人
二、二七	沼尻 文次郎	六一	大	本人

<15>

## 生存者配偶者復氏の部

大字	氏名	夫	復氏	氏名	先
土器屋	廣瀬 好子	弟	東京郡松並区	茂隆	三丁目

## 婚姻の部

大字	氏名	配偶者名	備考
中根	本橋 まさ	小松崎 洋	土浦市九三六番地へ
古未	豊島 忠	川瀬 昌子	愛知県名古屋市長区飯田町三丁目 四番地より

## 養子縁組の部

大字	養子氏名	実父	実母	養父	養母	備考
松塚	鈴木 敏	志保之助	さよ	吉村 徳太郎	坊丸	土浦市
吉瀬	五頭 久	幸一	こさん		小神野 さち	九重村

## 転籍の部

大字	氏名	転籍の場所	備考
古未	豊島 正精	東京都豊島区長崎丁目	本人一名
磯町	宇都木 次郎	米村大字横町。九番地	全員六名

## 学校建築基金へ寄附

一 金 志 萬 円 也 米野便局長 故久松 勝  
故人は、PTA役員、子供会長の職にあり、特に教育関係に熱意を持たれて居りましたが四月五日急逝されましたにつき遺志により特に寄附を頂きました一 金 志 萬 六 千 円 也 岡田議長外村会議員十五名

<16>



## 新学年を迎えて

小学校 鷹巢 清

新しい教室と真新しい教科書のインキの匂い、新しい友達。どれ程か御子様達は限らない進級の喜びに胸おどらせて、この四月を迎えた事でしょう。とりわけ一年生としてはじめて校門をくぐる幼な子の心情はどんなでしょうか。

私は速い過去をふり返り、己のそうした姿を思い出しては、懐旧の情切なるものがあると共に、今は先生として受入れる立場にある自分を顧みて感慨の一入なるものがあるので御座います。

新しい人生への出発、私はこの厳肅な事実の前に立つて、己の責任の重大さに凛然といたします。受入態勢に遺漏はないか、此の後の指導はどうあるべきだろうか。人の子の師として私も職員は、深く内省しこの希望に燃える子供達と、深い信頼をお寄せ下さる、皆様方に対して、いささかも御期待を裏切る事のない様、精励を誓い合っている次第です。

今更申上げるまでもなく、教育は学校と家庭の緊密

な協力による事は御承知の通りであります。今年度は更にその体勢を強化いたしました。共々に努力して参りたいと存じます。何れ年度はじめの父兄会を催し、篤と御懇談いたしたいと存じます。その節は是非御来校下さる様御願ひ致します。

次に四月の主な行事予定をお知らせいたします

四月七日 入学式並に始業式

十二日 学級委員任命

十六日 父兄会

当月才一水曜日を昨年同様学級参観日といたしますが今月は十六日に催します。必ず御出席下さいますやう御願ひいたします。

廿一日 身体検査

廿四日 遠足

低学年 謙沢駅附近

中学年 栗原小学校

高学年 東城寺

廿九日 天皇誕生日 休業

尚家庭訪問は五月初旬を予定しておりますから、そ



の節はよろしくお願いいたします。その前に御子様や御家族様についての色々の調査をいたしますから、その際は御協力方お願します。これは御子様指導の参考資料となるものです。

又、新年度を迎え学用品を購買部で整えましたから一層御利用下さる様、お子様方へも御指導願います

### 昭和二十六年卒業生受賞者

成績優良賞 広瀬俊一 程塚美代子 本橋英輔、里見

利夫、柴田萬里子、飯島義一、塚本智子

藤沢節子、五頭章子、飯島光子、小川登

志子、酒井よし子、市村浩、沼尻美知子

中島美智子、酒井治也

努力賞 酒井 日、久松しげ、室町英智子、

飯島彬、荒井光世、大塚文子

岩瀬重夫、塚本智子、岩瀬興一、程塚美

代子、里見利夫、五頭章子、飯島義一

藤沢節子、本橋英輔、広瀬俊一、市村浩

酒井治也、飯島彬、飯島光子、小川登志

酒井よし子、沼尻美知子、中島美智子

根本好 沼尻盛夫

新治郡学校長会長賞 本橋英輔、広瀬俊一

米村長賞 藤沢節子、飯島光子

P.T.A会長賞 五頭章子 小川登志子

校医賞 鈴木光子、塚本てる子

米農協同組合長賞 程塚美代子、酒井よし子

町畜成績優良賞 鈴木光子 中島美智子

### ◆村議会の動き

二月四日 組合五中学校問題につき交渉のため教育民

生委員二名 校長P.T.A会長等と共に栗原村出長、

二月十七日 村会協議会を聞き中根柴崎間道路改修、

中根墓地移転、学校問題等につき協議をなす

二月十八日 教育民生委員会を聞き教育費を検討す

三月五日 教育委員副議長九重村出張(学校問題)

三月廿日 村会協議会を聞き昭和廿七年度当初予算

の査定を行ふ

三月廿四日 昭和廿五年度会計監査を執行す

三月廿九日 本会議を開き昭和廿五年度決算、昭和廿

六年度追加更正予算昭和廿七年度当初予算其他審議



## 保健婦だより

一、妊娠届は何故せねばならないでせうか

「妊娠届なんか」と、よくおつしやるお方がございますけどこれは児童福祉法第二十條に、「妊娠したものは速かに医師又は助産婦の妊娠證明書を添へ、市長村長に妊娠届出をしなければならぬ。但し附近に医師又は助産婦がない等、やむを得ない理由があるときは医師及び助産婦の妊娠證明書を要しない」といふ法律にもとづき届出をするのであります。

二、妊娠した者は血液検査を、何故行ふ様になつてゐるのでせうか

これは性病予防法第一條に、「性病が国民の健康な心を侵し、その子孫にまで害を及ぼすことを防止するため其の徹底的な治療及び予防をばかり、公衆衛生の向上及び増進に寄与する」。ことを目的とするためです。又第九條に「妊娠した者は、性病にかつてゐるかどうかについて、医師の健康診断を受けなければならぬ」とありますので、うける様になつてゐる

のです。

可愛い、生れて来る御子様のため、右の様なことをよく御心得下さいまして、健康な子を生み、健康に育成し、支障欠陥のない立派な子孫を世の中に出します様お互に心がけませう

いつにない大雪のため、余寒も厳しく恐れられます皆様健康に尚一層御元氣をつけて下さいます様御願ひ致します。

## 『栄愛菊会』生る



文化日本の象徴たる、菊花の愛好家栽培家を中心とした「栄愛菊」が結成されました。会員は栄村をはじめ、土浦市九重村等の同好の士七十三名から成り、事務所は中根前増山重信氏官であります。皆様の御愛顧と、又奮つて御入会御支援あらん事を望んで居ります

会長 根本正男 副会長 末栖清一

理事 上方要範 塚本哲四郎 増山重信

監事 小島 満 飯島清八

顧問 酒井治郎 小林寅之助、岡田啓阿

趣意書、会則及班長名等は右日掲載の予定

# 電話

## 村から家庭へ 家庭から村へ

- ◆ 二月六日 養蚕経営者の総会を開き、養蚕振興方策並に部落組合を村農場養蚕部に統合の件協議す
- ◆ 二月十日 藤沢村より村会議員四名を村、村政並に公民館運営につき調査あり
- ◆ 二月十五日 松塚生産組合主催のカルテペーター講習会を開いた。
- ◆ 二月十六日 青年学校生徒及講師の茶話会を開き、学級の運営並に科目に対する意見の交換をなした。
- ◆ 二月廿五日 弘報委員会を開き教育特種号の編輯計画につき協議す。
- ◆ 二月廿八日 農大室島教授米村、本村の土壤検査を行ふ。検査の結果は五月号の弘報誌上に発表の予定
- ◆ 三月五日 白葉採種圃の追肥及管理を行ふ
- ◆ 三月五日 公民館正副部長会議を開き廿七年度事業計画及予算、部の改廃等につき協議をなす
- ◆ 三月六日 茨城会館に於ける県公民館連絡協議会大会に飯島館長出席す

(19)

- ◆ 三月九日、栄九重栗原三ヶ村の煙草組合優良耕作者の表彰式を行い、リクレーションとして、映画会、栄音頭、栄小唄並に、花柳美代社中の唄と踊りの会の催し、盛会であつた。
- ◆ 三月十一日、公民館運営審議会を開き、各部の改善につき審議決定す。詳細は次号に掲載
- ◆ 三月十三日 農青年連主催にて、千葉市原郡東海村及松戸の千葉農大等、園芸先進地視察を行った。参加人員四十名。
- ◆ 三月十五日 ささり劇団により栄小唄の新振付が三日間に亘り仮設劇場に於て上演された。
- ◆ 三月十五日 公民館各部分科会議を開き、事業計画、経費予算の具体案につき協議をなす
- ◆ 三月十八日 子供会が果知事から三度目の表彰を受けたにつき、子供会の発表会が盛大に行われました。
- ◆ 表彰祝賀式に於いて、歌、舞踊、劇等純真な児童生徒達の、及びに溢るる演出は、教員の父兄に絶大の感激と慰安を与へた。表彰旗三年連続受賞の記録簿なり
- ◆ 三月十九日 映画「新しい村」の発表映写会が、晝夜にわたり、公民館に於て開催された。本村として

(20)

- 長期の協力と幾多の犠牲を拂つた甲斐あつて、優秀映画として完成を見た事は、県弘報課に対して感謝して止まない所である。何れ十六ミリフィルムが作られた上は、常に上映も出来、好個の資料となる訳である。
- ◆ 三月廿四日 県弘報課主催の弘報活動研究協議会に弘報委員村芳男氏出席す
- ◆ 三月廿七日 青年学級修業式を行い、修業証書の授与並に皆勤賞状(十二名)精勤賞状(十三名)の授与が行はれた。
- 村長賞 久保田 浩一
- 皆勤賞 久保田浩一、酒井昇、石黒忠男、五頭詠一、五頭昭 本橋朝子、酒井三男、酒井寛、本橋邦男、根本久子、本橋豊、上芳進、横田唯一
- 精勤賞 室町長久乃、片岡良、岩瀬惣一、諸川勝一、大山文子、里見秀子、酒井利雄、飯塚道子
- 藤澤嘉雄
- ◆ 三月廿一日公民館にて婦人会總會開催、決算及事業報告並に役員改選が行はれた左の方が當選せられた。
- 会長 酒井ゆう
- 副会長 豊島さよ、酒井八千代、米栖こと

◆ 一月以降米村した視察団次の如し

- 一月五日真壁郡大國村農協専務理事外十二名、一月八日七会村有志三名、十二日上大津村村長以下三十名
- 十二日北栢馬郡六郷村農事研究会員三十三名、一月二十八日筑波郡三島村日本農村文化研究会員七名、一月二十九日志瀨村青年団十名、同日北栢馬郡小文間村農協組合長外四十名、二月五日真壁郡上野村村長以下七名
- 同日稲敷郡野村村村長以下五十名、二月八日稲敷郡十倉島村村長一名、二月十日鹿島郡徳宿村八十名、二月十一日那珂郡五台村七十三名、二月十二日千葉県東葛飾郡湖北村村長外三十七名、二月十三日藤沢村村会議員十四名、二月十五日多賀郡日高村四クラブ十四名、同日高萩町社会教育委員八名、二月十六日稲敷郡十倉島村村長以下四十名、同日東茨城郡川田村教育員十一名、二月二十一日那珂郡菅谷村有志、二月二十三日真壁郡檀穂村中学校長以下十三名、二月二十六日稲敷郡岡田村公民館長外八十名、二月二十七日結城郡豊田村農業委員外有志一行五十名、三月一日稲敷郡原村青年団十名、同日稲敷郡高須村有志十名、三月三日高萩町婦人会四十名、多賀町農協青年部員四名、三月七日

猿島那生子菅村有志五十名、同日東茨城郡竹原村PT A五十名、三月八日北相馬郡六郷村長以下十名、高須村農事研究会員十名、三月十一日西茨城郡南川根村村長以下四十名、鹿島郡波野村婦人会員外五十名、北相馬郡東支間村四クラブ十二名、新治郡互会村有志二十名、三月十二日下大津高浜林三中学校長、三月十三日久慈郡坂本村農事研究団四十三名、三月十五日千葉県印旛郡舟穂村有志三十名、同湖北村有志二十名、同日東茨城郡山根村有志三十名、三月二十二日久慈郡世田村長以下百二十名、同日鹿島郡新宮村有志二十名、那珂郡勝田村有志三十名、三月二十四日栃木県宇都宮市西原町有志三名、三月二十六日那珂郡野口村有志二十五名、猿島郡鹿島村村長以下四十名、同日東茨城郡町村役場統計会員一行二十五名、三月二十七日千葉県木血津市市役所経済課員四名、三月二十八日玉川村女子青年団八名、筑波郡久賀村有志十名、三月二十九日鹿島郡大谷村村長以下五十名、三月三十一日栃木県芳賀郡水橋村教育委員二十名、四月一日鹿島郡夏遊村議長以下八名、四月五日那珂郡芳野村社会教育委員三十名、同日小桜村婦人会九十名、久慈郡世矢村農協組合

長以下五十名、四月八日久慈郡坂本村青年会二十名、同日東茨城郡上中妻村婦人会七十名、久慈郡山田村村長一行三十名、四月九日、宮城県町村会主事外四名、四月六日、青年会昭和廿六年度定期総会は、公民館に於て開かれ、事業並に決算報告等あり、新役員左記の通り決定発表された。

会 長 沼野保之助

副会長 久保田定一 根本仁也 沼尻幸子

◆ 昭和廿五年度栄村歳入歳出決算

歳入合計 七、四七三、〇八九円七四

歳出合計 六、五一一、七三一円八二

差引残額 九五四、七七〇円九二 廿六年度へ繰越

◆ 昭和廿六年度栄村歳入歳出追加予算

歳入合計 一、二七九、五五四円

歳出合計 一、二七九、五四七円

当初予算との比較増 五五九、九二五円

◆ 昭和廿七年度栄村歳入歳出当初予算

歳入合計 七、五六三、二〇二円

歳出合計 七、五六三、二〇二円

前年度当初予算との比較増 三六六、九〇七円

### 十六、映写機使用規則

- 一、本映写機（附属器具を含む）は総べて栄村長の管理の基に置く。
- 二、本映写機の操縦は村長の委嘱する技術者を以て之に当てる。但し技術者の日当は使用者の負担とする
- 三、本映写機は栄村内の団体のもののみ使用を許可する
- 四、使用の場合は団体の責任者より届出のあつた場合に限り許可する。
- 五、使用の場合は借用書に所定の事項を記入し村長宛に届出許可を受ける。
- 六、使用の場合は使用料金として館内志千円、館外五百円を納入しなければならない。
- 七、使用期間は原則として一日以内（廿四時間）とし貸出は特に許可ある場合の外は認めない
- 八、返済に当つては係員の検査を受ける
- 九、返済に当つて消耗品以外の備品で破損した場合は当該団体によつて補修する
- 一〇、粉失したる場合は当該団体によつて補償する
- 一一、規則を履行しない場合は貸出を禁止する

### 編輯後記

雪がち、雨がちの未だ体験したことのない不順な天候から、ホッと解放されたかと思ふと、急に花の盛りである。徒長した麥や、トマトの苗と取り組む村人達の真剣な忙しさは、このまゝ今年の生産戦線に突入するのである。三月に予定した記事を其の伍四月号として纏輯せざるを得なかつた結果について、幾多申訳せねばならない矣がありますが、何れ次号に於て補はして頂きたいと思ひます。五月号に於ては村の予算關係及改選人事を発表するプランです

### 『くわかえ』第二巻第十八号

昭和廿五年十一月三日 創刊

昭和廿七年四月十五日 印刷

昭和廿七年四月十五日 発行

編輯人 栄村公民館公報委員会

印刷人 土浦市巾着町九二九 かすみ印刷写堂

電話（七）四八九番

発行人 栄村公民館長 飯島吉亮